めっけもん！もうけもん！
東大阪 いっとこ MAP

東大阪市マスコットキャラクター トライくん

いあわせ 東大阪

石切（いしきり）～善根寺（ぜんごんじ）周辺

―歴史のあけぼのをたずねて―

発行 / 東大阪観光協会
作成 / 2022年10月
更新 / 2023年 2月
※施設等の情報は変更されている場合がありますのでご了承ください。
■東大阪市観光振興事業■

石切～善根寺周辺 ―歴史のあけぼのをたずねて―

東大阪の石切、日下地域には、篤い信仰心により守り続けられてきた石切劔箭神社や歴史の重み、深さを感じさせる善根寺春日神社などの多くの神社が鎮座しています。また、縄文の日下貝塚遺跡や神武天皇が「東に美地有り」と大和入りをめざして上陸しようとした盾津浜、孔舎衙坂などがあり、神話『日本書紀』『古事記』の世界が目の当たりにすることができます。

更に、中世近世には、このような豊かな歴史的な風土が、優れた文化伝統、芸術、学術を生み出しました。それらに繋がる黄檗伽藍大龍寺、河澄家住宅など名所旧蹟が多くあります。ぜひとも、東大阪石切、日下地域にお越しいただき、歴史的な風土・佇まいをお楽しみ下さい。

① 芝山古墳跡 しばやまこふんあと

この付近の山丘は、"芝坊主山"と呼ばれ、芝山古墳が存在した場所です。芝山古墳は、周辺に多数存在する古墳群より古くて五世紀末頃に築造された全長約30mの前方後円墳で、墳丘はほぼ南北に主軸をおき、後円部盛土内に比較的小型の横穴式石室を有していました。

芝山古墳は明治時代初年、大阪造幣局の技師として来日したイギリス人のウィリアム・ゴーランドによって発掘されました。日本考古学史に記念すべき古式の横穴式石室をもった貴重なる古墳でしたが、昭和37年（1962）に住宅造成工事で破壊されました。出土した遺物類は、現在イギリスの大英博物館に所蔵されています。

② 正法寺跡 しょうほうじあと

行基の開基と伝えられ、室町時代永正の頃（1504年～）以心という僧が中興し、律宗東廬山正法禅寺と号してしていました。東西約200m、南北約100mの大きな敷地を有する寺でした。『雨月物語』で有名な上田秋成は寛政10年(1798)に目の療養のため4ヶ月の間、当寺に滞在し、随筆『山霧記』を残す。明治維新後、神仏分離によって廃寺となりました。

③ 旧生駒トンネル（孔舎衙坂駅跡） きゅういこまとんねる（くさえざかえきあと）

奈良線の旧生駒トンネルは、大正3年（1914）に、近畿日本鉄道（近鉄）の前身である大阪電気軌道（大軌）により開通しました。開通当時は中央本線の笹子トンネル（4, 655m）に次いで日本2番目の長さ3,388mあり、日本初の標準軌複線トンネルでした。昭和39年（1964）に南側に並行して新生駒トンネルが開通したためこのトンネルは使用されなくなりました。

旧トンネルは、使用停止後も新生駒トンネルやけいはんな線の生駒トンネルと連絡しており、高圧電流の通る電力設備も設置され部外者の立ち入りが禁止されています。

④日下新池(天女ヶ池)　孔舎衙健康道場跡・ヒトモトススキ
くさかしんいけ（てんにょがいけ）　くさかけんこうどうじょうあと

大軌電車開通後の大正4年（1915年）に地元の人達の手で「日下遊園地」が開設され周辺には料理旅館、少女歌劇団、ミニ動物園、池には貸しボートが、池の周辺の桜が満開になる頃花見の人達で賑わいました。今も桜の名所です。

大正15年（1926年）あやめ池遊園地（平成16年閉園）が開園すると、徐々に衰退しました。建物は「孔舎衙健康道場」として結核治療を行う施設となりました。京都の木村庄助という熱心な太宰治ファンが昭和16年（1941年）8月から年末にかけて孔舎衙健康道場に入院し、療養生活を克明に記した日誌を遺しました。太宰が木村から贈られたこの日誌を題材にしたのが『パンドラの匣』です。

池の一角には、市の天然記念物に指定されているヒトモトススキ（カヤツリグサの一種）があります。

⑤丹波神社 たんばじんじゃ

丹波神社の祭神は、曾我丹波守古祐です。大坂西町奉行を務めた江戸時代前半の人で、寛永11年（1634年）から万治元年（1658年）まで25年間在勤しました。曾我丹波守古祐は、用水を確保し干害を無くすための工事をしました。明暦4年（1658年）に没しましたが、その徳を慕う村人たちにより、墓が作られその霊位を神と崇めて奉斎されました。今も「丹波さん」として親しまれています。

⑥大龍禅寺（大龍寺） だいりゅうぜんじ（だいりゅうじ）

聖徳太子の創建と伝えられ、応仁の乱で焼失しました。現在の建物は、江戸時代の元禄年間に再建されたものです。黄檗宗の特色あるガラン4棟が市の文化財に指定されています。境内の墓地には、上田秋成を世話した唯心尼（紫蓮）の墓があります。彼女は、当地の出身で、江戸時代、難波の豪商によって設立された懐徳堂を運営していた両替商平瀬家に嫁ぎました。秋成も若い頃、懐徳堂に通っていました。

黄檗宗万福寺の末寺で、古くは瑞雲山厳松寺と称せられていました。貞享3年（1686年）の夏、干ばつが続いたため、当時の僧が雨乞いを行うと、たちまち雨が降り、大龍が空中に現れたということから、大龍寺と寺号を改められました。

⑦旧河澄家 きゅうかわずみけ

河澄家は江戸時代に庄屋を務めた旧家です。住宅は桁行11間、梁間5. 5間の茅葺入母屋造りの主屋と桁行4間の奥座敷、背後に土蔵を配しています。奥座敷（棲鶴楼）などが増築されて造りかえられていますが、江戸時代初期の様相を残しています。

日下の地には、上田秋成を慕った河内の文化人が多く集まり、河澄家もその一つです。古くから曾我丹波守や生駒山人とつながりの深い旧家でした。建物は市に寄贈され、一般公開されています。

開館時間／9:30～16:30　休 館 日／月曜日（祝日の場合は翌日）祝日の翌日・年末年始
入 場 料／無料　TEL／072-984-1640

⑧日下貝塚と貝塚碑 くさかかいづかとかいづかひ

大正15年(1926)に縄文時代の遺跡として認められ、その後の調査を含め、約40体の埋葬人骨、埋甕、竪穴住居、貝塚などが検出されています。貝塚はセタシジミを主体としながらもタニシ・ハマグリ・サザエなど31種にのぼる貝遺体を包含し、イノシシ・シカ・クジラ・タイなどの動物遺体、オニバスなどの植物遺体とともに縄文土器、石器などが出土しています。昭和47年（1972）に国の史跡指定を受けています。

⑨神武天皇盾津顕彰碑 じんむてんのうたてつけんしょうひ

神武天皇が戊午年の2月に浪速国に入り、3月に河内国に入って、4月に龍田へ進軍するが道が険阻で先へ進めず、東に軍を向けて生駒山を経て大和の国へ入ろうとしたところ、長髄彦との孔舎衙坂の戦いに敗れ、五瀬命が流れ矢を受けて負傷しました。神武天皇は日の神の子孫なのに、日に向かって戦うことは天の意思に逆らうことだと悟り、兵を返し草香津まで退き、盾を並べて雄叫びをあげて士気を鼓舞しました。そこで、この地が盾津と名付けられました。

⑩枚岡の原始ハス ひらおかのげんしはす

「古事記」雄略天皇の条に、引田部赤猪子の作として、つぎのような歌がのせられてます。「日下江の入江のハチス花ハチス 身の盛り人羨しきろかも」このように5世紀のころ、日下の湿地には、ハチ（古語）ハチスが美しく咲いていたようです。善根寺七軒屋の北側にあった大井路に今日一般に栽培されているハスにくらべ全体がいちじるしく小形のハスがあり、昭和11年（1936）、ハスの研究家、大賀一郎博士が調査され「原始なハスである」といわれました。この原始ハスは、昭和45年（1970）に大阪府文化財保護条例によって、天然記念物に指定されています。

⑪安岡正篤氏旧宅 やすおかまさひろしきゅうたく

茅葺きを銅板で覆った入母屋造の農家型住宅があります。この建物は明治41年(1908)から大正4年(1915)までの7年間、陽明学者安岡正篤氏が住まいとしたことで知られています。安岡氏はこの家で孔舎衙小学校5年生から旧制四条畷中学校のときまでを過ごし、のち歴代宰相の指南役を務め、また平成の元号の発案者となりました。

⑫菩提寺 ぼだいじ

古くは村名のもととなる善根寺という寺名でした。本尊は阿弥陀如来座像です。宝前の銅製釣燈籠一対は天保15年(1844)足立重三郎が寄進したものです。境内にある花崗岩製の十三仏板碑は戦国時代末期の作です。

⑬善根寺春日神社 ぜんごんじかすがじんじゃ

善根寺の旧村社で『大阪府全志』によると「768年（神護景雲2年）枚岡神社を分霊して大和の春日に遷座するのに供奉した一行のうちの25人が河内に立ち帰り、この地に春日4神を勧請したのが当社の起源である。」と伝えられています。この春日25人衆が春日神社の屋根葺き替えなどに奉仕し、宮座へと発展したといわれています。明治5年（1872）に枚岡神社に合霊されましたが、同14年（1881）復社されました。祭神は、天児屋根命、比賣神、経津主命、武甕槌命です。神社では10月15日の「おだいつ祭」のための神酒をつくる造酒神事が10月1日に行われます。本殿の南側に造酒斎殿があり、道具類と共に市の民俗文化財に指定されています。

⑭大坂城残念石 おおさかじょうざんねんいし

大坂城築城時、石垣として運ばれるため大名等の刻印をうっていたが、そのまま残された石です。刻印から見て元和６年(1620)～寛永６年(1629)までに行われた徳川期のもので、上部には、石を切り出すためのクサビ痕も残っています。表面には、「東足立」「西社地」など土地の境界を示す文字が残っています。ここにある足立とは、豊臣・徳川幕府から石奉行に任じられていた足立氏をさしています。社地とは春日神社のことです。

⑮足立氏館跡 あだちしやかたあと

足立氏は、古代氏族和気氏の末裔と伝えられています。戦国時代も末期、足立又助昌成は、はじめ織田信長、後に豊臣秀吉に仕え、大坂城築城にあたって石奉行を命じられ、河内郡善根寺に移り住み、築城用の石材を多量に搬出しました。その子仁兵衛宗佐も普請奉行を命じられ、徳川幕府のもとに大坂城修築用石材を切り出し、以後、足立氏は在地の豪族として栄えました。

足立氏の屋敷跡は、今も完全な姿を残し、広壮な周濠と石垣で囲まれた敷地は、東西約110m、南北85mの大規模な城郭的色合いの濃いもので、石奉行であった足立氏の力を偲ばせます。

⑯盾津浜 神武天皇上陸の地 たてつはま じんむてんのうじょうりくのち

神武天皇の東征のとき「盾津」と名付けたことによります。江戸初期には船着場がありました。

⑰マッコウクジラの骨出土地 まっこうくじらのほねしゅつどち

昭和49年（1974）、布市の国道170号線近くで行われた下水工事現場の深さ約6m下から巨大な骨が発見されました。骨はマッコウクジラの骨で、頸骨、肋骨、歯などがあって、今から5000年前（縄文時代前期）河内湾の時代に入ってきたものです。